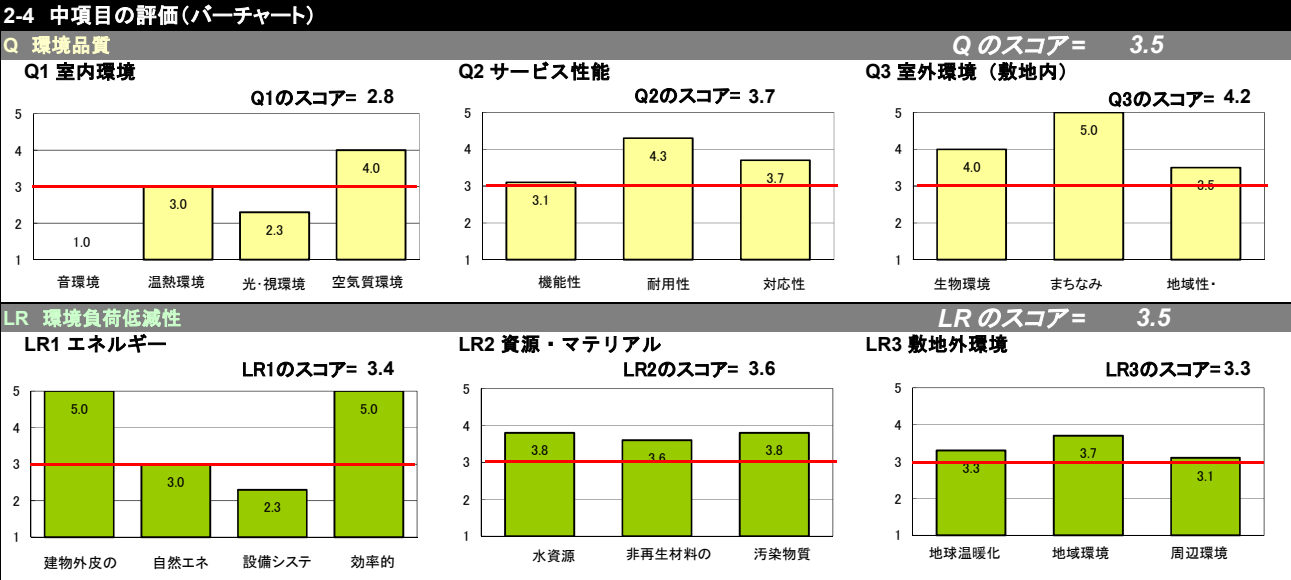
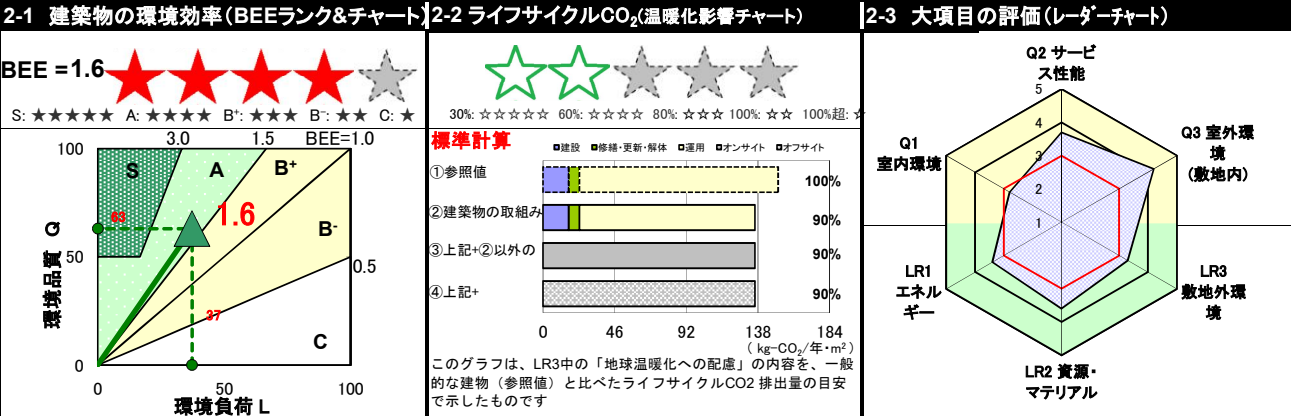


CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.2)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	虎ノ門ヒルズ グラスロック	階数	地上4F、地下3F	
建設地	東京都港区	構造	S造	
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	- 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	- 時間/年(想定値)	
建物用途	物販店、飲食店、	評価の段階	竣工段階評価	
竣工年	2024年8月 竣工	評価の実施日	-	
敷地面積	2,445 m ²	作成者	-	
建築面積	1,697 m ²	確認日	-	
延床面積	8,797 m ²	確認者	-	



3 設計上の配慮事項			その他
総合 ・港区虎ノ門に建設される物販店舗、飲食店、駅施設の複合施設である。 新駅と一体となった立体的な駅広場を配置し、駅と街をつなぐ重要な交通結節点として計画されている。			-
Q1 室内環境 ・ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を使用し、全館禁煙として室内の良好な空気質環境の確保を図っている。	Q2 サービス性能 ・非常用発電設備の設置等、災害時の設備機器の機能維持を図り建物の信頼性の向上に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) ・屋上、空地部分を積極的に緑化し、緑による良好な景観形成、及び生物環境の保全に配慮している。 ・熱源システムをDHC(地域供給熱)を採用する事で温熱環境の向上に配慮している。	
LR1 エネルギー ・システム性能評価が可能な計画とし、コミッションングの実施により、エネルギーの効率的な運用に配慮している。 ・運用管理体制の整備により、エネルギーの効率的運用に配慮している。	LR2 資源・マテリアル ・節水器具の採用により、水資源保護に配慮している。	LR3 敷地外環境 ・駐車場の確保や出入りのしやすい駐車場計画により、交通渋滞緩和に配慮している。 ・周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
虎ノ門ヒルズ グラスロック

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.2)

スコアシート		竣工段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								3.5	
Q1 室内環境					0.40		-	2.8	
1 音環境				1.0	0.15		-	1.0	
1.1 室内騒音レベル				1.0	0.40		-		
1.2 遮音				1.0	0.40		-		
1 開口部遮音性能				1.0	1.00		-		
2 界壁遮音性能				-	-		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-		-		
1.3 吸音				1.0	0.20		-		
2 温熱環境				3.0	0.35		-	3.0	
2.1 室温制御				3.9	0.50		-		
1 室温		冬期:23℃、夏期:25℃		4.0	0.50		-		
2 外皮性能		断熱性能の高い建材の採用		3.9	0.17		-		
3 ゾーン別制御性		4管式のFCU、OHU		4.0	0.33		-		
2.2 湿度制御		冬期:45%、夏期:50%		4.0	0.20		-		
2.3 空調方式				1.0	0.30		-		
3 光・視環境				2.3	0.25		-	2.3	
3.1 昼光利用				3.0	0.66		-		
1 昼光率					-		-		
2 方位別開口					-		-		
3 昼光利用設備				3.0	1.00		-		
3.2 グレア対策					-		-		
1 昼光制御					-		-		
3.3 照度					-		-		
3.4 照明制御				1.0	0.34		-		
4 空気質環境				4.0	0.25		-	4.0	
4.1 発生源対策				4.0	0.50		-		
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の建材を採用		4.0	1.00		-		
4.2 換気				3.5	0.30		-		
1 換気量		中央管理方式、30㎡/h人以上		4.0	0.50		-		
2 自然換気性能					-		-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50		-		
4.3 運用管理				5.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視		CO ₂ 監視が可能、管理マニュアル整備あり		5.0	0.50		-		
2 喫煙の制御		全館禁煙		5.0	0.50		-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.7	
1 機能性				3.1	0.40		-	3.1	
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40		-		
1 広さ・収納性					-		-		
2 高度情報通信設備対応					-		-		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00		-		
1.2 心理性・快適性				3.1	0.30		-		
1 広さ感・景観				3.0	0.39		-		
2 リフレッシュスペース				2.0	0.22		-		
3 内装計画		コンセプトの反映等		4.0	0.39		-		
1.3 維持管理				3.5	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保		維持管理機能の確保		4.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				4.3	0.30		-	4.3	
2.1 耐震・免震・制震・制振				4.6	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法の1.5倍の耐震性を有する		5.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.7	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		-		
2 外壁仕上材の補修必要間隔		耐用年数の長い外装材の採用		5.0	0.20		-		
3 主要内装仕上材の更新必要間隔		耐用年数の長い内装材の採用		5.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		ガルバリウム鋼板ダクト等の採用		4.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				4.8	0.20		-		
1 空調・換気設備		災害時に換気の運転が可能		5.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備		節水器具の採用等		5.0	0.20		-		
3 電気設備		非常用発電設備の採用等		5.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA以上		4.0	0.20		-		
5 通信・情報設備		光ケーブル、メタルケーブルの引き込み等		5.0	0.20		-		

3 対応性・更新性			3.7	0.30		-	3.7
3.1 空間のゆとり	1 階高のゆとり	最も低い階高:5.5m	4.2	0.30		-	
	2 空間の形状・自由さ	—	5.0	0.60		-	
			3.0	0.40		-	
	3.2 荷重のゆとり	4500N/㎡以上※架構用・地震用の割増なし	4.0	0.30		-	
	3.3 設備の更新性		3.2	0.40		-	
	1 空調配管の更新性	—	3.0	0.20		-	
	2 給排水管の更新性	—	3.0	0.20		-	
	3 電気配線の更新性	—	3.0	0.10		-	
	4 通信配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく更新・修繕が可能	5.0	0.10		-	
	5 設備機器の更新性	—	3.0	0.20		-	
	6 バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			—	0.30	-	-	4.2
1 生物環境の保全と創出		生物環境の保全と創出に配慮した計画	4.0	0.30		-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		まちなみ・景観に配慮した計画	5.0	0.40		-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30		-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		地域性・快適性に配慮した計画	4.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		—	3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			—	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			—	0.40	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制		断熱性能の高い建材を使用	5.0	0.20		-	5.0
2 自然エネルギー利用		—	3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化		—	2.3	0.50		-	2.3
4 効率的運用			5.0	0.20		-	5.0
	集合住宅以外の評価		5.0	1.00		-	
	4.1 モニタリング	システム効率評価を行うことが可能	5.0	0.50		-	
	4.2 運用管理体制	運用管理体制の構築等	5.0	0.50		-	
	集合住宅の評価			-		-	
	4.1 モニタリング	—		-		-	
	4.2 運用管理体制	—		-		-	
LR2 資源・マテリアル			—	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護			3.8	0.20		-	3.8
1.1 節水		節水コマなどに加えて、省水型機器の採用	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60		-	
	1 雨水利用システム導入の有無	雨水の再利用	4.0	0.70		-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.60		-	3.6
2.1 材料使用量の削減		機械式継手の採用等	4.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		—	3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		—	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		リサイクル資材を3品目採用	5.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		—	2.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上げ材の分別が容易	4.0	0.20		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.8	0.20		-	3.8
3.1 有害物質を含まない材料の使用		建材種別4つ以上あり	5.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.70		-	
	1 消火剤	不活性ガス消火剤を使用している	4.0	0.33		-	
	2 発泡剤(断熱材等)	—	3.0	0.33		-	
	3 冷媒	—	3.0	0.33		-	
LR3 敷地外環境			—	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		高効率な設備機器を採用し、CO2を低減	3.3	0.33		-	3.3
2 地域環境への配慮			3.7	0.33		-	3.7
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用していない	5.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		—	3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25		-	
	1 雨水排水負荷低減	指導規模以上の雨水流出抑制対策を実施している	4.0	0.25		-	
	2 汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25		-	
	3 交通負荷抑制	駐輪、駐車台数を確保し車両出入時の混雑を避けた計画	5.0	0.25		-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	ゴミの種類別回収が可能なストックスペースの確保等	4.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33		-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
	1 騒音	—	3.0	1.00		-	
	2 振動	—	-	-		-	
	3 悪臭	—	-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
	1 風害の抑制	—	3.0	0.70		-	
	2 砂塵の抑制	—		-		-	
	3 日照阻害の抑制	—	3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20		-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画	4.0	0.70		-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30		-	

虎ノ門ヒルズ グラスロック

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

3 設備システムの効率化

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) -

U値(W/m2K)窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 -

住戸部分窓システムU値 - 外皮UA値 - η AC - η AH -

昼光率0.0%

自然換気有効開口面積率0.0%

執務スペース0.0㎡/人病床0.0㎡/床シングル0.0㎡ツイン0.0㎡

コンセント容量0.0 VA/㎡

天井高0 m

リフレッシュスペース0.0%レストスペース0.0%

想定耐用年数0 年

想定必要間隔0 年

想定必要間隔0 年

想定必要間隔0 年

階高0 m

壁長さ比率0.0%

床荷重 - N/m2

外構緑化指数50%建物緑化指数8%

空地率31%水平投影面積率9%地表面对策面積率20%舗装面積率40%

BPI/BPI_m0.67断熱等性能等級等級2 相当

自然エネルギー直接利用量0 MJ/年㎡採光を満たす教室数0.0%採光を満たす住戸数0.0%

通風を満たす教室数0.0%通風を満たす住戸数0.0%

BEI/BEI_m非住宅0.93住宅 - 太陽光0.0kW太陽熱等0.0kW蓄電池0.0kW

雨水利用率0.0%

特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -

使用比率0.0%

オゾン層破壊係数(ODP)地球温暖化係数(GWP)

オゾン層破壊係数(ODP)地球温暖化係数(GWP)

オゾン層破壊係数(ODP)地球温暖化係数(GWP)

見付面積比100%隣棟間隔指標R_w 0.28

地表面对策面積率32.0%屋根面对策面積率4.0%外壁面对策面積率1.0%

見付面積S_b776㎡卓越風向と直交する最大敷地面積W_s34.392 m基準高さH_b22.46 m

緑地347㎡水面㎡保水性対策面㎡高反射対策面㎡再帰性反射対策面㎡